

# 平成 2 7 事業年度における業務実績報告書

抜 粋

## 目 次

1	法人の自己評価に対し「3名」の委員が異なる評価をつけた項目（1項目）	.....	1
2	法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（7項目）	.....	2
3	法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（23項目）	.....	16
4	法人の自己評価と同じ評価としたうえで、コメントが付された項目（4項目）	.....	43

# 1 法人の自己評価に対し「3名」の委員が異なる評価をつけた項目（1項目）

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置  
 3 附属病院に関する目標を達成するための措置

## (1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人自己評価	委員評価					
イ 周産期医療及び小児科医療の充実を図り、胎児から幼児及び母体に対して一貫した専門的な質の高い医療を提供できる診療体制を構築するとともに、救命救急センターやドクターヘリの機能を維持し、県内の救急医療の充実に努める。	b 県内の救急病院をはじめとする他の医療機関との連携により、三次救急医療機関としての十分な機能を果たす。	県内の救急医療において、十分な役割を果たした。	Ⅲ	Ⅳ					
		<p>〈27年度受入患者数〉</p> <table border="1"> <tr> <td>救急受入患者数</td> <td>12,977人</td> </tr> <tr> <td>うち救急車による搬送患者</td> <td>5,154人</td> </tr> <tr> <td>うちドクターヘリによる搬送患者</td> <td>411人</td> </tr> <tr> <td>うちオーバーナイトベッド利用者</td> <td>3,255人</td> </tr> </table> <p>なお、厚生労働省が行う救命救急センター充実段階評価において「A」評価を受けた。（全国6位/271施設中。高度救命救急センター中3位/36施設中。）</p>			救急受入患者数	12,977人	うち救急車による搬送患者	5,154人	うちドクターヘリによる搬送患者
救急受入患者数	12,977人								
うち救急車による搬送患者	5,154人								
うちドクターヘリによる搬送患者	411人								
うちオーバーナイトベッド利用者	3,255人								
				Ⅳ					

## 2 法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（7項目）

### 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

#### 1 教育に関する目標を達成するための措置

##### (1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	法人 自己 評価	委員 評価
学部教育					
エ	<p>医学又は保健看護学を中心とした総合的・専門的知識、医療技術を身につけるだけでなく、それらを総合的に活用し、問題解決能力を有する人材を育成する。</p> <p>また、医学部では、国際基準を満たす教育を実践する。</p>	<p>a 1年次から4年次まで実施している PBL(Problem based learning:問題解決型授業)/チュートリアルを継続し、臨床実習についてはポートフォリオを活用することで能動的問題解決型能力を育成する。</p> <p>医学教育分野における国際認証の取得を目指し、講義時間の短縮、カリキュラムの改訂、臨床実習の質の改善と適正な評価方法の導入の取組を進める。</p> <p>また、英語教育の充実を図るため、1年生に TOEFL を受験させる。〈医学部〉</p>	<p>教養セミナー（PBL形式）を1年次に、基礎PBLを2年次及び3年次に行った。臨床PBLは4年次に講義とのハイブリッド形式で行った。</p> <p>基礎PBLは2学年に分け、2年次後期に形態と機能に関する内容を1グループ8～9名の12グループで、3年次前期には薬理、感染、病理などで1グループ3～16名の11グループで、PBL及び実験形式により行った。4年次には、臓器別の系統的な講義と並行し症例を中心としたPBLを行った。</p> <p>教養セミナーでは、教養科目と関連した内容について能動的な教育を体験し、その後の修学方法の基礎が養われた。2年次、3年次の基礎PBLでは、講義で学んだことを各テーマについて討論することで、より深い知識と思考能力を向上させた。</p> <p>臨床PBLでは、症例について疾患の診断の手順や考え方を学ぶとともに、疾患の理解から臨床推論に至る過程を体験し、臨床実習への準備教育となった。</p> <p>2、3年次に病棟訪問を2日間行い、基礎医学において、臨床医学をより理解できる取り組みとした。</p> <p>また、臨床実習中の評価を適正に行うために、電子カルテ上に毎日の実習内容（ポートフォリオ）を学生に記載させ、評価できるようにした。</p> <p>国際基準に準拠するため、27年度から1時限70分、1日5時限のカリキュラムとした。また国際化に対応するため英語教</p>	III	IV

育の充実を図る目的で、1年生に TOEFL を受験させた。

臨床実習については、実習期間を 24 年度より 50 週から 52 週に延長し、臨床実習を充実させた。選択制臨床実習では、海外での施設を含め 16 施設で臨床実習を行い、より実際の臨床に近い実習を行うことが可能となった。

臨床実習中の手技についても、医行為の水準を示し、実施状況を明らかにするため、評価シート (mini-CEX) を実習中に使用し、年度末に集計を行った。また、実習で行った症例については、病名、症例数を集計し、十分な症例を経験したかを解析した。医行為についても集計し、実習において十分な手技を体験したかについて解析した。

PBL (セミナー) テーマ数と期間 (医学部)

年度	25年度	26年度	27年度
1年次 教養セミナー	14テーマ 後期	13テーマ 後期	14テーマ 後期
2年次 教養特別セミナー	11テーマ 前期	10テーマ 前期	/
2年次 基礎PBL	12テーマ 後期	12テーマ 後期	12テーマ 後期
3年次 基礎PBL	10テーマ 前期	10テーマ 前期	11テーマ 前期
4年次 臨床PBL	12科目	12科目	12科目

※4年次については科目数

医学部臨床実習			
	25年度	26年度	27年度
期間	52週	52週	52週
人数	67名	66名	104名
施設数	13病院 31診療科	10病院 34診療科	14病院 48診療科
病院名	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 こころの医療センター 社会保険紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦町立温泉病院 新宮市立医療センター	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 国保日高総合病院 紀南病院 南和歌山医療センター 那智勝浦町立温泉病院	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 こころの医療センター 国保日高総合病院 国立和歌山病院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 那智勝浦町立温泉病院
<p>27年度学外実習対象施設：15施設            紀北分院、橋本市民病院、公立那賀病院、            和歌山労災病院、済生会和歌山病院、            海南医療センター、有田市立病院、            こころの医療センター、国保日高総合病院、            国立和歌山病院、紀南病院、南和歌山医療センター、            国保すさみ病院、那智勝浦町立温泉病院、            新宮市立医療センター</p> <p>27年度海外実習施設：2施設            チャールズ大学（チェコ） 2名            ハワイ大学（アメリカ） 1名</p>			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	法人 自己 評価	委員 評価
学部教育					
コ	<p>附属病院における卒後教育を充実させるために附属病院とのさらなる連携を図る。</p>	<p>卒後教育の充実について、保健看護学部、附属病院看護部及び平成26年度に設立した看護キャリア開発センターにおける協議及びスタッフ間交流を継続する。</p> <p>また、教育指導者を育成するための研修プログラムを前述の三者で協議し、立案する。〈保健看護学部〉</p>	<p>保健看護学部の教員、附属病院看護部及び看護キャリア開発センターのスタッフが参画するユニフィケーション委員会が中心となり、教員とスタッフが交流し、卒後教育の充実について意見交換会を5回開催した(1回の参加者は40~50人)。教育指導者を育成する研修を3回コースから4回コースに充実させるとともに、ユニフィケーション委員会委員以外に、臨床指導者たちも受講できる形とした(1回の受講者20~30人)。この研修は、教育心理の視点で学ぶことができ、後輩への関わり方についての振り返りにもなり、参加者にとって好評であったため、研修プログラムのモデルとすることができた。</p>	Ⅲ	Ⅳ  Ⅳ







			<p>事例共有の検討会の開催数：6回（26年度6回）</p> <p>看護部安全対策リンクナース会において、看護部と医療安全推進部が看護業務に関連する事例を共有し、改善策の立案、実施、評価を行うことにより、安全管理を強化した。</p> <p>看護部安全対策リンクナース会の開催数：10回 （26年度 11回）</p> <p>事例検討会の開催数：2回（26年度3回）</p> <p>また、引き続き、転入者を対象とし、基礎知識の習得機会を提供することを目的としたオリエンテーションを感染制御部、医療情報部、医療安全推進部が協力して開催し、医療の安全性の向上につなげた。</p> <p>転入者オリエンテーション 開催数：8回（26年度3回） 参加者数：83名（26年度24名）</p> <p>転入者：他病院から転入または中途採用した全職種（医師・看護師・医療技師・事務）</p> <p>基礎知識：当院で業務を行うにあたり医療安全上必要な知識（感染予防、医療情報システムにおけるセキュリティなど）</p>		
--	--	--	---	--	--

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

4 地域貢献に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
イ	医学及び保健看護学に対する関心の向上及び予防医学の普及を図るため、地域における生涯教育の啓発を推進する。	a 小・中・高校生を対象に教員による出前授業を継続的に実施する。	県内の小・中・高校生等に関心を持ってもらえそうなテーマを選んで出前授業を実施したことにより、医学及び保健看護学に対する関心を高めることができた。	Ⅲ	Ⅳ
			<p>●出前授業 実施数：32回（26年度20回） 受講者数：1,908名（26年度1,363名）</p> <p>&lt;内訳&gt;</p> <p>1) 7月9日 河北中学校 307名 大切にしよう自分の心と体（次世代を生み育てていく君たちへ） 保健看護学部 山口雅子</p> <p>2) 7月10日 上秋津中学校 121名 熱中症にならないために リハビリテーション医学教室 田島文博</p> <p>3) 7月11日 開智高校 27名 看護という仕事 保健看護学部 鹿村真理子</p> <p>4) 7月12日 和歌山県計算実務協会 40名 ストレスを理解しよう 解剖学第一教室 上山敬司</p> <p>5) 8月5日 笠田中学校 30名 体内時計について知ろう～体の中の時計について学ぼう～ 病理学教室 佐藤冬樹</p> <p>6) 8月5日 串本古座高校 20名 脳で感じるということ</p>		Ⅳ

			<p>生理学第一教室 木村晃久</p> <p>7) 8月21日 紀伊小学校 40名 脳とテレビゲーム</p> <p>保健看護学部 上松右二</p> <p>8) 9月18日 新宮高等学校 15名 ウイルスとは何者か？善か悪か？</p> <p>微生物学教室 五藤秀男</p> <p>9) 9月18日 新宮高等学校 19名 ウイルスとは何者か？善か悪か？</p> <p>微生物学教室 五藤秀男</p> <p>10) 9月24日 ようすい子ども園 70名 みんなの食育</p> <p>中央研究機器施設 宇都宮洋才</p> <p>11) 9月24日 さつきこども園 62名 みんなの食育</p> <p>中央研究機器施設 宇都宮洋才</p> <p>12) 9月24日 向陽中学校 80名 酸化からからだを守る食べ物</p> <p>教養・医学教育大講座（化学） 岩橋秀夫</p> <p>13) 9月25日 山崎北保育園 39名 みんなの食育</p> <p>中央研究機器施設 宇都宮洋才</p> <p>14) 9月25日 おひさま保育園 27名 みんなの食育</p> <p>中央研究機器施設 宇都宮洋才</p> <p>15) 10月1日 古佐田丘中学校 40名 中枢性循環器調節のメカニズム</p> <p>生理学第二教室 前田正信</p> <p>16) 10月22日 古佐田丘中学校 80名 思春期の性について一緒に考えてみましょう</p> <p>保健看護学部 三島みどり</p> <p>17) 10月28日 串本西小学校 70名 脳とテレビゲーム</p> <p>保健看護学部 上松右二</p> <p>18) 11月11日 妙寺小学校 80名 からだのリズム</p> <p>生理学第二教室 向阪彰</p>		
--	--	--	--	--	--

			<p>19) 11月11日 向陽中学校 80名 睡眠と健康 保健看護学部 宮井信行</p> <p>20) 11月11日 向陽高等学校 52名 心の化学入門～錯覚・思い込み～ 保健看護学部 岩原昭彦</p> <p>21) 11月11日 向陽高等学校 47名 心の化学入門～錯覚・思い込み～ 保健看護学部 岩原昭彦</p> <p>22) 11月16日 智弁和歌山小学校 40名 みんなの食育 中央研究機器施設 宇都宮洋才</p> <p>23) 11月16日 山崎北保育園 41名 みんなの食育 中央研究機器施設 宇都宮洋才</p> <p>24) 11月25日 向陽中学校 80名 思春期の性について一緒に考えてみましょう 保健看護学部 三島みどり</p> <p>25) 11月26日 古佐田丘中学校 80名 睡眠と健康 保健看護学部 宮井信行</p> <p>26) 12月14日 さつきこども園 62名 みんなの食育 中央研究機器施設 宇都宮洋才</p> <p>27) 2月8日 宮小学校 60名 痛みはいい子？悪い子？ 生理学第一教室 井辺弘樹</p> <p>28) 2月9日 西ヶ峰小学校 25名 脳とテレビゲーム 保健看護学部 上松右二</p> <p>29) 2月9日 宮小学校 31名 痛みはいい子？悪い子？ 生理学第一教室 井辺弘樹</p> <p>30) 2月15日 野崎西小学校 61名 医師の仕事 地域医療支援センター 上野雅巳</p> <p>31) 3月11日 伏虎中学校 62名</p>		
--	--	--	--	--	--

			「目の前で人が倒れたら」AEDと救命処置 救急・集中治療医学教室 加藤正哉 32) 3月17日 和医大ボランティアの会 20名 生活習慣病の予防 保健看護学部 有田幹雄		
--	--	--	--	--	--



			<p>深まらなかった（3%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の業務への活用</li> </ul> <p>大いに活かせる（43%） いくらか活かせる（56%） ほとんど活かさない（1%）</p> <p>上記のアンケート結果から、人権問題について、正しい知識を再確認し、人権意識の醸成を推進するとの目標は概ね達成できたと思われる。</p> <p><b>【研修概要】</b></p> <p>テーマ：「こんなことでもハラスメント？ ～より良い職場環境はコミュニケーションから～」</p> <p>講師：和歌山産業保健総合支援センター相談員遠藤瑞江氏</p> <p>実施日：27年 10月1日（木） 講義2回 11月25日（水）DVD上映3回</p> <p>※併せてDVD視聴による研修を実施</p>		
--	--	--	---	--	--

### 3 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（23項目）

#### 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

##### 1 教育に関する目標を達成するための措置

##### (1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	法人 自己 評価	委員 評価
学部教育					
ウ	カリキュラムポリシーに則り、社会人として必要な教養とともに医療人として必要な倫理観、共感的態度やコミュニケーション能力、ケアマインドを育成できる参加型教育を行う。	b 医療人として必要な倫理観、コミュニケーション、ケアマインドを育成するため、1年次の早期体験実習、2年次の統合実習Ⅰ、3年次の地域連携実習、4年次の統合実習Ⅱで参加型実習を体験させる。〈保健看護学部〉	<p>地域医療を支える専門職としてのあり方を修得するため、1年次には、地域で生活している人々との関わりを通して、暮らしと環境について理解し、健康との関連について学ぶことを目的とした早期体験実習（かつらぎ町花園地区での宿泊実習）を実施した。</p> <p>2年次には、地域で暮らす各発達段階の人々の生活に触れる統合実習Ⅰを23の施設・機関において実施した。</p> <p>3年次には、地域医療を支える県内の8施設において、地域医療の現状や課題を理解する地域連携実習を実施した。</p> <p>4年次には、保健看護管理過程に体験的に参加し、保健看護管理過程の実際を17施設・機関において学ぶ統合実習Ⅱを実施した。</p> <p>早期体験実習の参加者数：1年生全員            統合実習Ⅰの参加者数：2年生全員            地域連携実習の参加者数：3年生全員            統合実習Ⅱの参加者数：4年生全員</p>	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	法人 自己 評価	委員 評価
学部教育					
カ	<p>他の職種と医療情報を共有でき、協調して医療が行える能力を育成するため、多職種間教育の充実を図る。</p> <p>また、医療安全や人権、死生観にも配慮できる能力を育成する。</p>	<p>医学部と保健看護学部の共通講義や病院及び福祉施設等での両学部の実習等を通じて、他職種の重要性の認識や、協調・連携能力を育成する。</p> <p>また、講義や実習などを通じて、医療安全、人権、死生観に配慮できる能力を育成する。〈医学部〉〈保健看護学部〉</p>	<p>医学部と保健看護学部の合同講義として、患者及び患者家族の会から直接話を聞き、両学部の学生が話し合うケアマインド教育やチーム医療についての講義、福祉施設実習を通じて他職種への理解が深まった。</p> <p>また、医療安全の推進や人権に関する講義を実施するとともに、人の死についての講義を行い、医師として必要な能力を育成した。</p> <p>さらに、1年次の夏休み中に実施した早期体験実習では、臨床の現場を体験させ、将来医師となるために持つべき心構えを改めて確認させるとともに、今後の修学について計画を立てさせることができた。</p> <p>4年次の臨床実習入門の最終日に、医学部と保健看護学部の両学生が参加した多職種連携に基づく臨床技能試験を試行した。</p> <p>ケアマインド教育、実習施設数及び実習者数はP. 6 ウ参照。 〈医学部〉</p> <p>両学部共通講義としての医療入門・ケアマインド教育を両学部が連携して実施し(18コマ)、両学部の教員が選定したテーマに基づく共通講義を行った。さらに、チーム医療等について両学部共通のグループワークを実施した。(6コマ) 〈保健看護学部〉</p>	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
ア	適切な教職員を配し、附属病院などの実習施設との連携のもと、教育の充実を図る。	b 保健看護学部と附属病院看護部において、実習の実施に関する打合せ及び評価に関する意見交換を充実させるとともに、効果的な臨地実習を行うための年度計画を立案する。〈保健看護学部〉〈附属病院看護部〉	実習の実施に関する打合せおよび評価に関する会議を保健看護学部・附属病院看護部担当者と当該部署管理者及び臨床指導者の参加のもと5回開催した。意見交換を充実させるために、実習前には、学生のレディネスを確認した結果を参酌した。実習の年度計画は保健看護学部で立案し、附属病院看護部が調整し確定した。27年度は小児や母性など4領域の実習を2週間10～11クール、成人領域を3週間7クール、そのほか基礎実習、統合実習をおこなった。	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
イ	学部教育と大学院教育の連携を図り、多様な履修形態を検討する。	多様な履修形態の導入を目的に開始した「医学部・大学院医学研究科博士課程履修プログラム」について学部生への周知を図り、大学院準備課程（いわゆるM.D.-Ph.D コース）の登録を促す。また、発表の機会を与えることで研究の質を充実する。（医学部）（医学研究科）	大学院準備課程について学生向け説明会を実施した（参加教室 17、参加学生5名）。新たに5名の医学部生が登録し、現在56名になっている。準備課程在学中に受験できる博士課程入学試験のうちの外国語試験については、26名が受験し全員が合格している。	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
エ	従来の図書館機能の飛躍的発展を目指し、図書館を、情報教育及び情報ネットワーク機能、博物館機能を備えた総合学術情報センターとして改組することを検討する。	学外から大学が所有する電子ジャーナルへの閲覧を可能とし、情報提供ネットワークを拡充する。	許可した特定の者（図書館利用者カード発行者：3,775人、28年3月31日現在）が、学外からインターネット回線を介して図書館ホームページにアクセスし、所蔵情報（国内雑誌・外国雑誌電子版ジャーナルや一次資料・二次資料データベース等）を検索出来るシステムを構築した。	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人自己評価	委員評価																								
オ	<p>教育方法と教育者の資質の向上を図るとともに、教育活動の評価を学生及び第三者を含めた多方面から行うことにより、授業内容の客観的な評価の改善を図る。</p> <p>b 教育方法と教育者の資質向上を図るため、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会による研修会や教育方法改善のための講演会を開催するとともに、教員相互の授業参観や授業評価等を行う。</p> <p>さらに、学生による授業評価を行う。（保健看護学部）</p>	<p>FD 委員会主催で外部講師等による特別講演会及び本学教員による発表会（FD カンファレンス）を開催した。</p> <p>また、教育方法の改善と教育者の資質向上を促進するために、教員相互参観を前期及び後期ともに実施した。</p> <p>参観結果は、本人に文書で伝えるとともに、全教員に結果を通知した。</p> <p>参観授業数・参加者数 (単位：コマ、名)</p> <table border="1" data-bbox="974 805 1581 1045"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参観授業数(前期)</td> <td>5</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>参観授業数(後期)</td> <td>2</td> <td>12</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>参観者数(延べ)</td> <td>7</td> <td>30</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table> <p>特別講演会</p> <table border="1" data-bbox="974 1109 1624 1380"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>参加者数</th> <th>講師</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月7日</td> <td>33</td> <td>熊本大学政策創造研究教育センター生涯学習教育部門教授 都竹茂樹</td> <td>インストラクショナルデザインを活用した授業設計—効果・効率・魅力を高める看護教育を考える</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	参観授業数(前期)	5	13	12	参観授業数(後期)	2	12	14	参観者数(延べ)	7	30	26	開催日	参加者数	講師	テーマ	10月7日	33	熊本大学政策創造研究教育センター生涯学習教育部門教授 都竹茂樹	インストラクショナルデザインを活用した授業設計—効果・効率・魅力を高める看護教育を考える	Ⅲ	Ⅳ
	25年度	26年度	27年度																									
参観授業数(前期)	5	13	12																									
参観授業数(後期)	2	12	14																									
参観者数(延べ)	7	30	26																									
開催日	参加者数	講師	テーマ																									
10月7日	33	熊本大学政策創造研究教育センター生涯学習教育部門教授 都竹茂樹	インストラクショナルデザインを活用した授業設計—効果・効率・魅力を高める看護教育を考える																									

			<table border="1"> <tr> <td>11月4日</td> <td>35</td> <td>和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 豊田充崇</td> <td>大学生の情報活用能力の現状とその育成</td> </tr> <tr> <td>1月27日</td> <td>29</td> <td>大阪教育大学教育学部教員養成課程 養護教育講座 教授 白石龍生</td> <td>大学教育のありかた：学生のモチベーションを高め、教員自身の質の向上を目指して</td> </tr> </table>	11月4日	35	和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 豊田充崇	大学生の情報活用能力の現状とその育成	1月27日	29	大阪教育大学教育学部教員養成課程 養護教育講座 教授 白石龍生	大学教育のありかた：学生のモチベーションを高め、教員自身の質の向上を目指して															
11月4日	35	和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター 教授 豊田充崇	大学生の情報活用能力の現状とその育成																							
1月27日	29	大阪教育大学教育学部教員養成課程 養護教育講座 教授 白石龍生	大学教育のありかた：学生のモチベーションを高め、教員自身の質の向上を目指して																							
			<p>FDカンファレンス（本学教員等）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>講師</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月3日</td> <td>西村 賀子</td> <td>ミャンマー連邦共和国及びヤンゴン看護大学との大学間提携について</td> </tr> <tr> <td>7月1日</td> <td>志波 充 津村麻里子</td> <td>研究費の使い方、研究理論</td> </tr> <tr> <td>9月2日</td> <td>山田 和子</td> <td>科研に向けて</td> </tr> <tr> <td>9月16日</td> <td>柳川 敏彦 津村麻里子</td> <td>ハウツーゲット科研費</td> </tr> <tr> <td>12月2日</td> <td>水越 正人</td> <td>地域医療に還元できる教育・臨床・研究を目指して</td> </tr> <tr> <td>3月2日</td> <td>上野美由紀</td> <td>臨地実習における安全管理</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、4回以上授業を実施した全教員に対しては、学生による授業評価を実施し、教育内容及び方法の改善の資料として学生による評価の結果をフィードバックした。</p>	開催日	講師	テーマ	6月3日	西村 賀子	ミャンマー連邦共和国及びヤンゴン看護大学との大学間提携について	7月1日	志波 充 津村麻里子	研究費の使い方、研究理論	9月2日	山田 和子	科研に向けて	9月16日	柳川 敏彦 津村麻里子	ハウツーゲット科研費	12月2日	水越 正人	地域医療に還元できる教育・臨床・研究を目指して	3月2日	上野美由紀	臨地実習における安全管理		
開催日	講師	テーマ																								
6月3日	西村 賀子	ミャンマー連邦共和国及びヤンゴン看護大学との大学間提携について																								
7月1日	志波 充 津村麻里子	研究費の使い方、研究理論																								
9月2日	山田 和子	科研に向けて																								
9月16日	柳川 敏彦 津村麻里子	ハウツーゲット科研費																								
12月2日	水越 正人	地域医療に還元できる教育・臨床・研究を目指して																								
3月2日	上野美由紀	臨地実習における安全管理																								

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

	中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価																								
イ	論文発表を促進するとともに、論文の質の向上を図る。	a 英文エディターを雇用し、本学教員による英語原著論文の作成支援、インパクト・ファクター（学術研究に関する影響度）の高い学術雑誌への掲載推進を図る。	<p>英語原著論文の発表促進及び質の向上を図るため、英文エディター（英語論文校正・校閲担当教員）を、27年4月から臨床研究センターに配属し、英語論文の執筆指導や文書校正等を行った。</p> <p>27年度に医学生物学分野の学術文献サービスである PubMed に収録された論文数は182件であった。</p> <p>PubMed に収録された論文数</p> <table border="1" data-bbox="972 772 1518 944"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>正教員によるもの</td> <td>139</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>その他の研究者によるもの</td> <td>70</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>209</td> <td>182</td> </tr> </tbody> </table> <p>英語原著論文</p> <table border="1" data-bbox="972 1021 1518 1163"> <thead> <tr> <th></th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論文数</td> <td>150</td> <td>121</td> </tr> <tr> <td>(内訳) 医学部</td> <td>145</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>保健看護学部</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※26年度から調査方法を変更しているため、26年度分から記載している。</p>		26年度	27年度	正教員によるもの	139	103	その他の研究者によるもの	70	79	計	209	182		26年度	27年度	論文数	150	121	(内訳) 医学部	145	118	保健看護学部	5	3	II	III  ※II
	26年度	27年度																											
正教員によるもの	139	103																											
その他の研究者によるもの	70	79																											
計	209	182																											
	26年度	27年度																											
論文数	150	121																											
(内訳) 医学部	145	118																											
保健看護学部	5	3																											

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

	中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人自己評価	委員評価
ウ	先進医療や高度医療、新しい技術を導入した医療等を研究し実施するため、治験管理体制の充実を図る。	a 平成26年度に設置した「臨床研究センター」を中核として、企業からの委託に基づく治験の実施を促進するとともに、本学の研究者が主導する治験や臨床研究にも十分に対応可能な組織体制を構築する。併せて、治験等を実施する他の施設への支援体制を整備する。	<p>本学の研究者が主導する治験や臨床研究に対応できるよう、臨床研究センターにおいて下記の人員体制を整備した。</p> <p>※職員数は、27年度末の職員数（センター内の職を2以上兼務している場合は、1としている。）、() 書きは26年度末数値を記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究センター 総計23名(16名)</li> <li>臨床研究センター長 1名(1名)</li> <li>臨床研究センター長代行 1名(0名)</li> <li>臨床研究センター副センター長 1名(1名)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究教育部門 計4名(0名)</li> <li>部門長(兼務 副センター長(生物統計家))</li> <li>知財コーディネーター 1名(0名)</li> <li>英文エディター 1名(0名)</li> <li>事務職員 1名(0名)</li> <li>臨時職員 1名(0名)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>データセンター部門 計3名(1名)</li> <li>部門長(データマネージャー) 1名(0名)</li> <li>データマネージャー 2名(1名)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究・治験管理部門 計13名(13名)</li> <li>部門長(兼務 センター長代行(内科学第三講座教授))</li> <li>副部門長(兼務 薬剤部長) 1名(1名)</li> <li>課長補佐(治験コーディネーター) 1名(1名)</li> <li>治験コーディネーター 3名(1名)</li> <li>治験コーディネーター(任期付・臨時) 4名(7名)</li> </ul>	Ⅲ	Ⅳ

		<p>薬剤師（再任用・臨時） 1名（1名）          治験コーディネーターアシスタント（事務担当補助員） 1名（0名）          治験等支援業務担当職員 1名（0名）          事務専門職員 1名（2名）</p> <p>・本学及び他施設において実施した治験、臨床試験等に対して、本学3件（p.28ア参照）と下記のとおり外部の研究機関に対して治験及び臨床試験6件の支援を実施した。（UMIN登録に限る。）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研究区分</th> <th>外部研究機関</th> <th>臨床研究センターの支援内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師主導治験（1件）</td> <td>大阪大学 脳神経機能再生学</td> <td>臨床試験デザイン</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">臨床試験（5件）</td> <td>大阪大学 消化器外科 堺市立総合医療センター</td> <td>統計解析</td> </tr> <tr> <td>福岡大学 大阪大学 血液・腫瘍内科 大阪大学 生体機能補完医学</td> <td>臨床試験デザイン</td> </tr> </tbody> </table> <p>・治験業務を遂行した結果、治験実施件数・実施率及び治験による収入を増加させることができた。</p> <p>治験契約件数 23件（26年度15件）          治験実施率 76.7%（26年度62.5%）          治験による収入 88,972,311円（26年度51,222,322円）          （製造販売後調査含む）</p>	研究区分	外部研究機関	臨床研究センターの支援内容	医師主導治験（1件）	大阪大学 脳神経機能再生学	臨床試験デザイン	臨床試験（5件）	大阪大学 消化器外科 堺市立総合医療センター	統計解析	福岡大学 大阪大学 血液・腫瘍内科 大阪大学 生体機能補完医学	臨床試験デザイン		
研究区分	外部研究機関	臨床研究センターの支援内容													
医師主導治験（1件）	大阪大学 脳神経機能再生学	臨床試験デザイン													
臨床試験（5件）	大阪大学 消化器外科 堺市立総合医療センター	統計解析													
	福岡大学 大阪大学 血液・腫瘍内科 大阪大学 生体機能補完医学	臨床試験デザイン													

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置  
 3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

	中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価																				
ア	和歌山県がん診療連携拠点病院として、がん診療体制等の整備・充実を図り、がん対策に総合的、計画的に取り組んでいく。	a がんの診療体制を充実し、診療活動の改善につなげる。	<p>高度で先進的ながん診療機能を有する附属病院「東棟」において、最新の医療機器を活用したがん診療を行った。</p> <p>化学療法においては、増加する外来化学療法の需要に応えるため、軽易な皮下注射等を各診療科での施行に変更する等見直しを進め、高度な化学療法の提供を推進した。また、第三内科にて診療を開始した腫瘍内科では、原発不明がん等困難な症例に対応した。</p> <p>放射線治療においては、リニアックを更新し、トモセラピーとの2台体制にて多様な症例に対応した。</p> <p>また、27年4月に「緩和ケアセンター」を開設し、緊急緩和ケア病床の確保、苦痛のスクリーニング等がん患者の早期からの緩和ケア提供体制を整備した。</p> <p>○3大がん療法の実績</p> <table border="0"> <tr> <td>悪性腫瘍手術件数</td> <td>2,701件(26年度</td> <td>2,642件)</td> </tr> <tr> <td>化学療法施行患者延べ数</td> <td>10,723人(26年度</td> <td>10,569人)</td> </tr> <tr> <td>放射線治療患者延べ数</td> <td>5,617人(26年度</td> <td>5,074人)</td> </tr> </table> <p>○先端がん治療機器の実績</p> <table border="0"> <tr> <td>手術支援ロボット「ダヴィンチ」</td> <td>27年度加療実績</td> <td>107件(26年度</td> <td>99件)</td> </tr> <tr> <td>強度変調放射線治療(IMRT)機器「トモセラピー」</td> <td>27年度加療実績</td> <td>3,809人(26年度</td> <td>3,499人)</td> </tr> </table> <p>○がん相談支援センターの実績</p> <table border="0"> <tr> <td>相談実績</td> <td>2,504件(26年度</td> <td>2,465件)</td> </tr> </table>	悪性腫瘍手術件数	2,701件(26年度	2,642件)	化学療法施行患者延べ数	10,723人(26年度	10,569人)	放射線治療患者延べ数	5,617人(26年度	5,074人)	手術支援ロボット「ダヴィンチ」	27年度加療実績	107件(26年度	99件)	強度変調放射線治療(IMRT)機器「トモセラピー」	27年度加療実績	3,809人(26年度	3,499人)	相談実績	2,504件(26年度	2,465件)	Ⅲ	Ⅳ
悪性腫瘍手術件数	2,701件(26年度	2,642件)																							
化学療法施行患者延べ数	10,723人(26年度	10,569人)																							
放射線治療患者延べ数	5,617人(26年度	5,074人)																							
手術支援ロボット「ダヴィンチ」	27年度加療実績	107件(26年度	99件)																						
強度変調放射線治療(IMRT)機器「トモセラピー」	27年度加療実績	3,809人(26年度	3,499人)																						
相談実績	2,504件(26年度	2,465件)																							

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

	中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
エ	<p>紹介患者の積極的な受入、紹介元医療機関への受診報告をはじめとする診療連携や診療情報の共有化を推進するとともに、確たる仕組みを構築し、地域医療機関等との連携強化を図る。</p>	<p>a 患者退院時の返書に関する連携登録医の意見に基づき、返書管理を徹底できるような体制を確立し、信頼関係に基づいた病診連携の強化を図る。 また、連携登録医との交流会を開催し、連携登録医間の連携強化も図る。</p>	<p>患者のスムーズな受入と退院に向けた支援、療養生活にまつわる相談支援を効果的に進めるため、退院支援や相談事務を担当する「地域連携室」と病床管理を担当する「病床管理センター」を統合し、「患者支援センター」を28年度から開設する準備を進めた。 返書管理については、医師に対し、督促を徹底することによりほぼ100%の返書率となった。転科後の返書についても督促を繰り返し行うことにより、ほぼ100%となっている。 また、連携登録医からの、死亡退院後の状況が分からないという意見を受けて、死亡退院後の最終報告書の返事の徹底を図った。それにより、各診療科とも最終報告書への記載は徹底できている。 また、連携登録医交流会を通して、連携強化を図っている。現在連携登録医は798名となっており、専門分野別スケジュール、附属病院広報誌及び各科の講演会のお知らせ等を送付することによって、地域医療機関との連携強化に努めている。</p>	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

	中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
エ	<p>紹介患者の積極的な受入、紹介元医療機関への受診報告をはじめとする診療連携や診療情報の共有化を推進するとともに、確たる仕組みを構築し、地域医療機関等との連携強化を図る。</p>	<p>b 地域医療連携室を核として、地域医療機関及び地域福祉施設、ケアマネジャーとの連携を強化し、円滑な患者の受入及び退院を図る。〈紀北分院〉</p>	<p>伊都地域の医療機関との連携を深め、患者の紹介率を上昇させることができた。                  患者紹介率：49.3%（26年度：42.2%）                  逆紹介率：44.8%（26年度：39.1%）</p> <p>伊都医師会が主催するインターネット上の仮想病院「ゆめ病院」への参画を通じ、セキュリティを確保した上での情報ネットワークを通じた診療情報の共有に取り組んだ。                  伊都医師会が主催する「医療と介護の連携代表者会議」（6月、9月、12月、3月の年4回開催）（メンバー：医師会会員及び管内各病院代表、伊都地域全地域包括支援センター、伊都歯科医師会、伊都薬剤師会、伊都地域ケアマネ、訪問看護ステーション代表、ほか）に参画し、また「伊都医師会病診連携委員会」（7月、9月、11月、1月、3月の年5回開催）に参画し、医療・介護の情報交換による連携強化を図った。</p> <p>橋本圏域在宅医療体制検討委員会（メンバー：郡市医師会、郡市歯科医師会、県薬剤師会支部、県看護協会支部、県介護支援専門員協会支部、病院、訪問看護ステーション、市町村在宅担当課長、地域包括支援センター、保健所など）に参加し、橋本圏域の在宅医療の提供体制の構築に参画した。</p> <p>上記により地域の医療関係機関、介護関係機関、橋本保健所との連携を図ることができ、地域医療に貢献した。</p>	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
キ	医療安全及び感染制御の更なる体制強化により安全管理体制の充実を図るとともに、安全で質の高い医療を提供する。	a 厚生労働省の医療事故調査に関するガイドラインに基づき、医療事故調査体制を整備し、医療事故の再発防止を図る。	医療事故調査制度に係る指針を整備し、周知に努めた。 職員からの死亡報告書の提出により、院内発生 of 全死亡事例に関して把握し、「予期せぬ死亡、死産」への該当性を判断した。その上で、医療事故調査・支援センターへの届出の要否に関する検討が必要な事例に対しては、病院管理者（病院長）、医療安全担当副院長を含め検証、判定し、医療事故の再発防止に努めた。	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

	中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
キ	<p>医療安全及び感染制御の更なる体制強化により安全管理体制の充実を図るとともに、安全で質の高い医療を提供する</p>	<p>d 感染防止技術の向上を図り、各部門との連携を強化し、院内感染対策体制の充実に努める。</p>	<p>感染予防対策委員会、ICT 会議を月1回開催し、決定事項は各部門の感染対策担当者であるインフェクションマネージャーを通じて周知した。また、リンクナースには週1回のICTラウンドへの参画を促し、院内感染対策組織の一員としての役割を認識出来るようにした。</p> <p>耐性菌等のサーベイランスを実施し、院内の感染動向を監視した。耐性菌検出時は必要な感染対策が出来ているかの確認を実施し、監視を強化した。耐性菌サーベイランス、手術部位感染サーベイランスの結果は、厚生労働省院内感染対策サーベイランス参加施設との比較で平均的な分離率と感染率であった。</p> <p>全職員を対象に感染防止対策研修会を実施し、職員の感染対策の知識向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・27年度9回開催（26年度、9回開催）</li> <li>・参加者数：延べ4090人（26年度3930人）</li> </ul> <p>抗HIV治療ガイドライン変更に伴ってHIVの血液曝露後の予防内服について、感染対策マニュアルを改正し、マニュアルの遵守状況はICTラウンドで確認するとともに必要時は指導することにより、感染対策実施の強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策マニュアルの改正                     <ul style="list-style-type: none"> <li>針刺し・切創等、血液曝露対策の一部変更</li> <li>コリスチン使用指針の変更</li> </ul> </li> <li>・感染対策チームによる巡視                     <ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤耐性菌感染症判定と治療確認40回</li> <li>感染対策実施状況の確認44回</li> </ul> </li> </ul> <p>院内外からの感染症治療や感染対策の相談を受け、各部署に</p>	Ⅲ	Ⅳ

			<p>指導・助言を行った。特に感染症の報告や治療に関する内容の相談が増加した。</p> <p style="text-align: center;">相談件数 (件)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>25年度</td> <td>26年度</td> <td>27年度</td> </tr> <tr> <td>662</td> <td>818</td> <td>1095</td> </tr> </table> <p>職業感染対策として、医師、看護師、コメディカル等をはじめ、患者と接する職員を対象に4種抗体検査とワクチンプログラムを5ヵ年計画で実施することとした。1年目である27年度は抗体検査実施者は602人、ワクチン実施者は316人であった。また、職員のインフルエンザ予防のため、インフルエンザワクチン接種を実施した。</p> <p>抗菌薬長期使用例への介入を行い、抗菌薬の適正使用を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期使用介入症例数 168 (26年度 218)</li> <li>・介入後の改善症例数 118 (26年度 156)</li> </ul> <p>県内の感染対策連携施設とのカンファレンスや相互チェックを行い、地域の感染対策の向上に貢献した。</p>	25年度	26年度	27年度	662	818	1095		
25年度	26年度	27年度									
662	818	1095									

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価				
ク	患者に安全・安心で信頼できる医療を提供するため、病院医療水準の向上を図る。	e インセンティブ制度を導入し、職員のモチベーションを向上させることにより、手術件数の増加など医療体制の充実を図る。	<p>インセンティブ制度は、職員のモチベーションの維持・高揚を図ることにより、継続的に病院収益を増加させるとともに、組織力をより向上させることを目的として導入したものであり、27年7月31日に27年1月から3月までの実績を対象として第1回支給を、28年1月29日に27年4月から9月までの実績を対象として第2回支給を行った。</p> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インセンティブ支給               <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>第1回 対象者 310人及び1所属</td> <td>支給総額 25百万円</td> </tr> <tr> <td>第2回 対象者 405人</td> <td>支給総額 30.5百万円</td> </tr> </table> </li> <li>・入院手術件数 6,977件 (対前年度 201件増)</li> <li>・全身麻酔下手術件数 5,139件 (同 161件増) (件数は重複あり)</li> <li>・入院手術手技料稼働額 3,212百万円 (同 149百万円増)</li> <li>・入院麻酔手技料稼働額 646百万円 (同 31百万円増)</li> </ul>	第1回 対象者 310人及び1所属	支給総額 25百万円	第2回 対象者 405人	支給総額 30.5百万円	Ⅲ	Ⅳ
第1回 対象者 310人及び1所属	支給総額 25百万円								
第2回 対象者 405人	支給総額 30.5百万円								

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(1) 医療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
ク	患者に安全・安心で信頼できる医療を提供するため、病院医療水準の向上を図る。	f 育児や介護のためにフルタイム勤務が困難である医師の状況を踏まえ、学内助教については勤務形態に短時間勤務制度を導入し、医師の流失を防ぎ、雇用の安定的な確保を図る。	<p>育児や介護等でフルタイム勤務が難しい女性職員でも働きやすく、キャリアが維持できるよう、短時間勤務制度（学内助教B）及び短時間正規職員制度（看護師・助産師）を施行したことにより雇用の安定的な確保が図られた。</p> <p>○短時間勤務制度（学内助教B）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務パターン</li> <li>1日6時間 週5日（30時間）</li> <li>・採用者数10名（学内助教9名、その他1名）</li> </ul> <p>○短時間正規職員制度（看護師・助産師）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務パターン及び採用者数</li> <li>① 1日4時間 週5日（20時間） 3名</li> <li>② 1日7時間45分 週3日（23時間15分） 2名</li> <li>③ 1日5時間 週5日（25時間） 2名</li> <li>④ 1日6時間 週5日（30時間） 5名</li> <li>⑤ 1日7時間45分 週4日（31時間） 3名</li> <li>計 15名</li> </ul>	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(2) 地域医療への貢献に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
ウ	地域の医療機関との役割分担と連携強化を行うとともに、専門的な情報発信を通じて地域の医療水準の向上に貢献し、地域医療の推進を図る。	連携登録医に対し、平成26年度に構築した大学図書館の文書検索システム及び紹介患者の診察情報参照システムを周知し、利用促進を図る。	<p>大学図書館にある最新情報の文献を参照できるメディカル・オンラインによって連携登録医もインターネット経由で利用出来るようになったことに加え、図書館使用のカードを発行し、利用促進を図った。メディカル・オンラインの閲覧数は、1年で2,805件であった。</p> <p>また、連携登録医に対し、紹介患者の診療情報参照システム「青洲リンク」については、文書発送時や病院訪問時にお知らせすることにより加入を促進した。</p> <p>それにより、青洲リンクの登録数は診療所、病院及び調剤薬局すべてにおいて増加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療所数 22 (26年度 17)</li> <li>・病院数 12 (26年度 9)</li> <li>・調剤薬局 75 (26年度 29)</li> </ul>	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(3) 研修機能等の充実にに関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価	
ア	<p>専門診療能力及び総合診療能力を有する医師を育成するため、臨床研修協力病院や社会福祉施設等とも連携しながら、卒後臨床研修プログラムの充実を図る。</p>	<p>a 指導医講習会を開催し、県内臨床研修病院における研修医の指導体制を強化する。</p> <p>また、和歌山研修ネットワークにより、本院も含めて県内の基幹型病院で採用された研修医の各病院間での相互受入を行う。</p>	<p>27年12月5日（土）及び6日（日）に厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会を開催し、40名が講習を修了した。</p> <p>また、和歌山研修ネットワークにより、本院と県内の基幹型臨床研修病院との間で研修医の相互受入を行った。</p> <p>他院からの受入 6名</p> <p>&lt;内訳&gt; 日本赤十字社和歌山医療センター 2名 国保日高総合病院 1名 紀南病院 2名 新宮市立医療センター 1名</p> <p>他院への派遣 124名</p> <p>&lt;内訳&gt; 日本赤十字社和歌山医療センター 12名 和歌山労災病院 24名 橋本市民病院 14名 国保日高総合病院 8名 紀南病院 11名 南和歌山医療センター 26名 新宮市立医療センター 29名</p> <p>その他、自由度が高い研修プログラムが評価され、27年度医師臨床研修マッチング中間公表において大学病院本院として全国第4位となる66名から1位希望があり、最終的に73名の研修医を採用した。</p>	Ⅲ	Ⅳ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 附属病院に関する目標を達成するための措置

(3) 研修機能等の充実にに関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価												
イ	<p>地域医療を担う医療人の育成を図るため、総合診療教育をはじめとする教育及び研修を充実させる。</p>	<p>e 紀北分院における総合診療医育成のための教育を充実させる。 併せて、紀北分院後期研修プログラムの推進を図るとともに、地域医療推進のため、医学部生、保健看護学部学生及びコメディカル養成学校生徒の研修受入や、職員等の研修を実施する。(紀北分院)</p>	<p>総合診療医の育成をはかるため、医学生・臨床研修医等を対象とした「総合診療セミナーin 高野山」を開催した。 ・対象：総合診療に関心のある医学部生、研修医、若手医師等 ・内容：総合診療医の役割・意義及び紀北分院における総合診療の取組</p> <p>また、総合診療医の主な活躍の場である「地域包括ケアシステム」について修練、研究する場として紀北分院内に「地域包括ケア病床」を開設した。</p> <p>医療専門職員養成学校からの教育や研修について、学校のカリキュラムに応じた実習生の受入を行い、地域医療を担う人材育成に寄与した。</p> <p>受入実習生数 (名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師養成学校</td> <td>121</td> <td>145</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>理学療法士養成学校</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	看護師養成学校	121	145	140	理学療法士養成学校	20	17	24	Ⅲ	Ⅳ
	25年度	26年度	27年度														
看護師養成学校	121	145	140														
理学療法士養成学校	20	17	24														

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

4 地域貢献に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価												
イ	医学及び保健看護学に対する関心の向上及び予防医学の普及を図るため、地域における生涯教育の啓発を推進する。	<p>b 地域住民を対象に健康講座、出前講座、動脈硬化検診等を実施し、地域における疾病予防と感染予防に関する生涯教育を実施する。〈紀北分院〉</p>	<p>疾病の早期発見や健康づくりに関する普及啓発を行い、伊都橋本地域住民の紀北分院の診療内容と健康づくりへの理解が深まった。</p> <p>出前講座等実施回数 (回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出前講座</td> <td>18</td> <td>24</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>健康講座</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>		25年度	26年度	27年度	出前講座	18	24	26	健康講座	12	12	12	III	IV
	25年度	26年度	27年度														
出前講座	18	24	26														
健康講座	12	12	12														

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

5 国際交流に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
ア	学生、教職員の海外研修を推進するとともに、留学生に対する支援を行う。	学生及び若手研究者に対し、海外派遣支援を行う。	<p>海外の6大学に対し、15名の学生を派遣した。 (26年度3大学9名)</p> <p>ハワイ大学、ミネソタ大学 各1名 カリフォルニア大学 3名 ハーバード大学 5名 チャールズ大学 2名 山東大学 3名</p> <p>特に、海外基礎配属短期留学生として山東大学へ医学部生3名を初めて派遣した。</p> <p>また、海外留学に必要な語学力を向上させるため、留学が決定した学生を対象に外国人講師による少人数生の英語授業(必須)を実施した。【基礎配属留学向け:5回(26年度4回)】この授業により、医学の専門用語の理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを取る必要性を認識させることが出来た。なお、特に厳しい面接試験のあるハワイ大学への留学を希望する学生2名には、Skype面接の特別指導を行い、2名とも合格させることができた。(28年派遣予定)</p> <p>また、海外経験の少ない若手研究者に対して、海外の大学等において先進医療技術の見学や先進的研究活動への参加等の機会を提供することにより、医療技術、研究能力の向上を促進した。派遣者の選定については、学内公募のうえ、研究活動活性化委員会の審議により決定した。</p> <p>派遣者数:2名(26年度 3名) 派遣者の所属:内科学第4講座、外科学第二講座 支給金額:計200万円 派遣先:インペリアルカレッジ(英国) ジョンズボブキンス大学(米国)</p>	Ⅲ	Ⅳ

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

2 人材育成・人事の適正化等に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
イ	育児代替教員制度等を活用し、女性教員の積極的な登用に努める。	育児代替教員制度等の周知徹底及び託児施設の運営改善を図る。	<p>男性職員の育児参加を促進するため、育児参加計画書の提出を求めることとするとともに、育児代替教員制度、育児休業制度について、引き続き、学内向けホームページに掲載することにより周知を行い、女性教員が働きやすい環境づくりに努めた。</p> <p>育児休業取得者 2名</p> <p>託児施設については、これまで附属病院の勤務者を利用対象としていたが、病院勤務以外の教員からの入所の要望があった為、当面の措置として、特段の理由が認められる場合は、利用対象者に支障が出ない範囲で認めることとした。</p> <p>また、入園者の増加による保育士不足を要因とする待機者が発生したことから、翌年度に備えて、業務委託先が計画的に保育士を確保出来るよう、利用希望調査を実施した。</p>	Ⅲ	Ⅳ

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
イ	医療材料、医薬品等の購入状況や支出状況を分析し、経費の削減を図る。	医薬材料費の診療稼働額に対する割合を縮小させる。	<p>近年、手術で使用する高額な医療材料や、腫瘍用薬等の高額な医薬品の購入が増加しており、医薬材料比率が大きくなってきている。この傾向は、他病院も同様である（下記参考データ参照）。</p> <p>医療用材料及び医薬品の価格交渉や、医療用材料検討委員会及び薬事委員会において、新規の医療用材料及び医薬品の採用を価格面からも審査することにより、購入費を削減したが、高額な医薬材料費等の購入額が増え、医薬材料比率は増加した。</p> <p>また、後発医薬品の導入に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療用材料検討委員会の開催数：6回</li> <li>・薬事委員会の開催数：11回</li> <li>・医薬材料比率：37.57% (26年度 34.40%)</li> <li>・後発医薬品数量シェア：58.75% (26年度 42.48%)</li> </ul>	Ⅲ	Ⅱ

【参考データ】

公立大学附属病院医薬材料比率 (単位：%)

	24年度	25年度	26年度
札幌医大	② 34.10	③ 35.62	② 36.53
福島医大	⑦ 37.50	⑧ 38.27	⑦ 39.46
横浜市大	⑥ 36.37	⑤ 36.55	⑤ 37.30
横浜市大センター	④ 35.10	④ 36.47	④ 37.21
名古屋市大	⑤ 36.13	⑥ 37.28	⑥ 38.21
京都医大	③ 34.93	② 35.57	③ 36.98
大阪市大	⑦ 37.50	⑦ 37.77	⑧ 40.70
奈良医大	⑨ 43.00	⑨ 43.82	⑨ 45.09
和歌山医大	① 33.27	① 34.16	① 34.40

第5 自己点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

2 情報公開等の推進に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
<p>教育の内容、研究の成果、診療の実績等について、ホームページへの掲載や報道機関への発表等を通じて積極的に情報を提供する。</p>	<p>c 平成27年度に創立70周年を迎えることから、記念事業を実施し、本学が果たしてきた役割を再確認するとともに、将来への展望を全ての関係者が共有するための機会とする。</p>	<p>創立70周年記念事業の実施により、学内外に本学の存在意義をアピールすることができた。また、本学がこれまで歩んできた歴史、果たしてきた役割等を再確認できただけでなく、記念式典・講演会、祝賀会、70周年記念誌等において様々な方から様々な提言を得たことにより、全ての関係者が、本学の将来展望について考える契機となり、組織の活性化を図ることができた。</p> <p>【開催日】27年11月1日  【場所】ダイワロイネットホテル和歌山  【記念式典・講演会出席者数】298名  講演① 「千の風になる前に知っておくべきこと」  高野山真言宗宗務総長・総本山金剛峯寺執行長 添田隆昭  講演② 「臨床研究中核病院を目指して」  和歌山県立医科大学特別顧問・名誉教授 吉川徳茂  【祝賀会出席者数】403名  【記念誌発行数】550部</p>	<p>IV</p>	<p>III</p>

#### 4 法人の自己評価と同じ評価としたうえで、コメントが付された項目（4項目）

##### 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

##### 1 教育に関する目標を達成するための措置

##### (1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	法人 自己 評価	委員 評価
学部教育					
サ	成績評価について教員の共通認識のもと、厳正かつ公正な評価を行い、適正な判定を行う制度・体制を整える。	<p>a 進級試験、卒業試験の成績の解析を行い、担当教員にフィードバックするとともに、卒業試験では正答率、識別指数から不適正問題を排除することにより、適正な成績評価を行う環境を整える。また、共用試験の分野別の試験成績から、分野毎の修学状況を評価して、各科にフィードバックすることで教育内容の改善を図る。</p> <p>成績評価及び試験問題の作成については、ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development：大学教員等の能力を高めるための実践的方法) を毎年行うことで問題作成能力の改善を継続して行う。〈医学部〉</p>	<p>4年次に行う共用試験 CBT については、領域毎の成績を教員にフィードバックした。卒業試験の内容については、全体の成績との相関性、分布などを評価したうえで各教員にフィードバックするとともに、正答率及び識別指数を算出し不適切問題を排除した。</p> <p>また、各科の試験の内容が適切であるか、シラバスに準拠しているかについて、学生に評価を行わせ、結果を教員にフィードバックし、試験の難易度、内容を標準化した。</p> <p>さらに、各学年の進級試験については、試験の成績の精度検定を行い、学年全体と各科の成績の相関、各科の成績分布から、合格判定基準を60点または平均-1.5SDに該当する点の低い方を合格基準とし、適正な成績評価を行う環境を整えた。</p> <p>試験問題の作成については、年度当初に教員に対して CBT 問題作成の研修会を開催し、問題作成能力の向上を図った。</p> <p>卒業試験は、各科の問題を総合的に出題し、配点についても国家試験のブループリントに準拠する形で行い、過去数年間の卒業試験と国家試験の成績から算出した70点を合格基準と設定した。</p> <p>教育評価部会における上記の取り組みが、国家試験合格率100%につながった。</p>	IV	IV

			<p>〈教育評価部会開催〉 第1回：27年 4月 28日 第2回：27年 7月 15日 第3回：27年 10月 21日 第4回：27年 12月 3日</p> <p>〈卒業試験ブラッシュアップ委員会開催〉 27年 9月 25日</p> <p>〈CBT 問題作成研修会開催〉 27年 4月 13日</p>		
--	--	--	--	--	--

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人自己評価	委員評価																												
イ	論文発表を促進するとともに、論文の質の向上を図る。  b 高度な研究を行うために必要とされる統計解析に関する知識・能力を高めることを目的として、研究者・医療従事者等を対象とした「医学統計学セミナー」を実施する。	<p>医学研究において必要とされる統計解析に関する知識を高めるため、本学研究者等を対象に「医学統計セミナー」を実施した。 27年度の当セミナー参加者数は、133名であった。</p> <table border="1" data-bbox="969 730 1597 1382"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>医学統計セミナー</th> <th>テーマ</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10月13日</td> <td>第一回ベーシックコース</td> <td>データの要約</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>10月20日</td> <td>第二回ベーシックコース</td> <td>量的データに対する推定・検定の方法</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>10月27日</td> <td>第三回ベーシックコース</td> <td>質的データに対する推定・検定の方法</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>11月11日</td> <td>第四回ベーシックコース</td> <td>生存時間データに対する推定・検定の方法</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>11月17日</td> <td>第一回アドバンスコース</td> <td>臨床試験デザインの統計的根拠</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>11月24日</td> <td>第二回アドバンスコース</td> <td>無作為化比較試験とCONSORTガイドライン</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>	開催日	医学統計セミナー	テーマ	受講者数	10月13日	第一回ベーシックコース	データの要約	33人	10月20日	第二回ベーシックコース	量的データに対する推定・検定の方法	16人	10月27日	第三回ベーシックコース	質的データに対する推定・検定の方法	10人	11月11日	第四回ベーシックコース	生存時間データに対する推定・検定の方法	12人	11月17日	第一回アドバンスコース	臨床試験デザインの統計的根拠	14人	11月24日	第二回アドバンスコース	無作為化比較試験とCONSORTガイドライン	14人	Ⅲ	Ⅲ
開催日	医学統計セミナー	テーマ	受講者数																													
10月13日	第一回ベーシックコース	データの要約	33人																													
10月20日	第二回ベーシックコース	量的データに対する推定・検定の方法	16人																													
10月27日	第三回ベーシックコース	質的データに対する推定・検定の方法	10人																													
11月11日	第四回ベーシックコース	生存時間データに対する推定・検定の方法	12人																													
11月17日	第一回アドバンスコース	臨床試験デザインの統計的根拠	14人																													
11月24日	第二回アドバンスコース	無作為化比較試験とCONSORTガイドライン	14人																													

			<table border="1"> <tr> <td>12月1日</td> <td>第三回アドバンスコース</td> <td>多群データ・経時データにおける統計的推測</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>12月8日</td> <td>第四回アドバンスコース</td> <td>多変量データ解と傾向スコア</td> <td>15人</td> </tr> </table> <p>臨床研究の実施に必要な統計解析に関する能力を高めるため、統計解析ソフトウェア JMP Pro の使用方法等に関する「統計解析ソフトウェア JMP セミナー」を実施した。 27年度の参加者数は、29人であった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>テーマ</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1月19日</td> <td>統計解析ソフトウェア JMP セミナー</td> <td>29人</td> </tr> </tbody> </table> <p>さらに、臨床研究の実施に必要なとされる知識を高めるため、外部から講師を招聘するなどし、本学研究者等を対象に「臨床研究セミナー」を実施した。 27年度の当セミナー参加者数は216名であった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>臨床研究セミナー</th> <th>テーマ</th> <th>演者</th> <th>受講者数</th> <th>遠隔配信受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月12日</td> <td>第一回</td> <td>統合倫理指針に拠した研究計画書の記載について</td> <td>下川敏雄</td> <td>41人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table>	12月1日	第三回アドバンスコース	多群データ・経時データにおける統計的推測	19人	12月8日	第四回アドバンスコース	多変量データ解と傾向スコア	15人	開催日	テーマ	受講者数	1月19日	統計解析ソフトウェア JMP セミナー	29人	開催日	臨床研究セミナー	テーマ	演者	受講者数	遠隔配信受講者数	6月12日	第一回	統合倫理指針に拠した研究計画書の記載について	下川敏雄	41人	5人		
12月1日	第三回アドバンスコース	多群データ・経時データにおける統計的推測	19人																												
12月8日	第四回アドバンスコース	多変量データ解と傾向スコア	15人																												
開催日	テーマ	受講者数																													
1月19日	統計解析ソフトウェア JMP セミナー	29人																													
開催日	臨床研究セミナー	テーマ	演者	受講者数	遠隔配信受講者数																										
6月12日	第一回	統合倫理指針に拠した研究計画書の記載について	下川敏雄	41人	5人																										

			7月24日	第二回	臨床研究に係る文書の保管と管理について	土井麻理子	32人	5人			
			9月10日	第三回	「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」について	厚生労働省	50人	7人			
			11月13日	第四回	医学系研究を実施するにあたっての研究倫理と臨床研究センターでの支援	藤井永治	20人	0人			
			1月22日	第五回	Essential Components of a manuscript	Shenli Hew	32人	0人			
			3月11日	第六回	他大学における臨床研究について	明石医療センター 総合内科 石丸直人 医長	18人	6人			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画		年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
エ	知的財産権管理体制を強化し、本学の知的財産の管理活用を進める。	b 臨床研究センターに配置する知財コーディネーターを活用し、本学の臨床研究の成果を確実に権利化するとともに、早期に活用する取組を推進する。	27年5月に知財コーディネーターを採用し、臨床研究センターに配属した。これにより、本学の研究者からの相談等に迅速に対応することができ、特許出願、審査請求等の取り組みを一層推進することができた。 特許出願件数 3件(26年度4件) 特許登録件数 1件(26年度0件) 特許実施件数 1件(26年度0件)	Ⅲ	Ⅲ

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

	中期計画	年度計画	年度計画の実施状況	法人 自己 評価	委員 評価
カ	横断的プロジェクト研究への重点的な資金配分を行う。	本学の重点課題及び講座・研究室等の枠を超えた横断的プロジェクト研究を推進するため、優秀なプロジェクトを選出し、助成を行う。	<p>本学の重点課題について、講座・研究室等の枠を超えた横断的な研究を「特定研究助成プロジェクト」と位置づけて、研究支援を行った。支援対象事業は、透明性を確保するため学外有識者7名のみで選考を行い、次のとおり採択した。</p> <p>応募数7件(26年度 5件) 採択数5件(26年度 4件) 助成額17,500千円(26年度 17,500千円)</p> <p>■27年度採択事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体反応としての組織修復と繊維化一分子メカニズム解明を目指して (法医学講座ほか3講座)</li> <li>・難治性がんに対する新規免疫学的戦略 (生体調節機構研究部及び外科学第二講座ほか2講座)</li> <li>・生体リズムと健康維持をつなぐメカニズムの基礎的研究とその臨床応用 (生理学第二講座ほか3講座、病態栄養治療部及びR I 実験施設)</li> <li>・和歌山県下の地域住民を対象とした心血管病および認知症の発症予防における家庭血圧測定の有効性に関する包括的地域コホート研究 (保健看護学部、公衆衛生学講座、衛生学講座)</li> <li>・医療人としてのプロフェッショナリズムを養成するための教育プログラムの開発</li> </ul>	Ⅲ	Ⅲ

			(保健看護学部、教育研究開発センター、教養・医学教育大講座)		
		寄附講座「みらい医療推進学講座」により運営している「みらい医療推進センター（サテライト診療所本町、げんき開発研究所）」について、本学の正規の機関となるよう名称及び学内での位置付けを見直すとともに、国等の支援を受けて障害者スポーツに関する医学科学研究を推進する。	<p>県との協議及び理事会での審議を経て、28年度から「みらい医療推進センター」を本学の正規の組織として位置付けることが決定した。</p> <p>また、28年3月、スポーツ庁が公募していた「パラリンピック陸上競技ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設」に田辺市の「田辺スポーツパーク陸上競技場」が指定され、本学もパラリンピック選手等のフィットネスチェックやメディカルチェック等のサポートを行うこととなった。和歌山県内では、平成20年に「和歌山マリーナ」が日本オリンピック委員会の「ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点（セーリング競技）」に指定されており、ここでも本学がトレーニングのサポートを受託していることから、本学はオリンピック・パラリンピックともにナショナルトレーニングセンターのサポートを実施する研究機関と位置付けられたことになる。</p>	III	III